

課題名 **モンゴルにおける生涯教育制度・政策の現状**
—ノンフォーマル教育から生涯教育へ移行する過程に
注目して—

研究代表者名 ダグワドルジ アディアニヤム
Dagvadorj Adiyanyam (東北大学大学院教育学研究科)

研究の目的と方法

(1) 目的

モンゴルにおける生涯教育の制度・政策がノンフォーマル教育から生涯教育へ移行する過程にあるという観点からその現状を概観し、ノンフォーマル教育の制度として機能した時代と比べてどのような面で変化を遂げ、どのような特徴を持って推進されているかを考察し、抱える課題を明らかにする。

(2) 方法

モンゴル教育科学省所属生涯教育ナショナルセンター職員 3 名、ウランバートル市内 6 区の CLC (ノンフォーマル教育・生涯教育センター) の教職員 6 名、モンゴル国立教育大学生涯教育講座の講師 1 名に対し、1 人約 1 時間の聞き取り調査 (Zoom 利用) を実施した。

研究経過

研究助成申請の時点 (2020 年 6 月) では 2020 年 9 月にモンゴルへ渡航し、現地調査を実施することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けて渡航を中止し、Zoom を利用するオンラインインタビューの形式で行う可能性を検討した。

2020 年 11 月上旬からインタビュー実施の手続きを開始し、承諾を得て、1 回目のインタビューを 11 月 14 日に、2 回目のインタビューを 11 月 18 日に実施した。

しかしその後、相手側の仕事の都合上、2021 年 1 月中旬まで調査を一旦停止した。1 月 13 日に 3 回目のインタビュー実施し、続けて次の通り進めた (表)。

| | 所 属 | 職 名 | 実施日 |
|----|------------------|----------|---------|
| 1 | Bayanzurkh 区 CLC | 教育マネージャー | 1月13日 |
| 2 | Nalaikh 区 CLC | センター長 | 1月14日 |
| 3 | Dornogobi 区 CLC | センター長 | 1月15日 |
| 4 | Chingeltei 区 CLC | センター長 | 1月16日 |
| 5 | Bayangol 区 CLC | 教員 | 1月19日 |
| 6 | Khan-Uul 区 CLC | 副センター長 | 1月22日 |
| 7 | モンゴル国立教育大学 | 講師 | 1月20日 |
| 8 | ナショナルセンター | センター長 | 2月13日 |
| 9 | 同上 | 職員 | 2月10日午前 |
| 10 | 同上 | 職員 | 2月10日午後 |

研究成果

モンゴルにおける生涯教育の制度・政策がノンフォーマル教育から生涯教育へ移行しつつある昨今の実態を把握し、研究論文としてまとめることができた。

モンゴルではノンフォーマル教育制度を土台に生涯教育制度を整備している段階であり、学習者の範囲を社会的弱者から広く全世代の人々へと広げ、補助教育や識字教育のみならず広く社会の底上げを目的とした教育へと方針を切り替えている。しかし、財政難、法整備の不十分さ、外部資金への依存状態が依然と続き、施設の不備をはじめとする数々の問題がこうした教育の展開を阻害する大きな要因となっていることが明らかになった。

反省点及び今後の課題

インタビューに応じて下さった方々から貴重な情報を沢山得られたにもかかわらず論文の中ではそれを十分に生かすことができなかった。

今後は制度政策のみならず教育関係に関わる人々の日常の行動、労働、生活、学習行為に関してより明確にしていく研究を続ける必要性を感じている。これからの研究課題としたい。